

平成 23(2011)年度

年次報告書



日本橋学館大学

平成 23 年度年次報告書

目 次

| | |
|------------------------|----|
| 1. 建学の精神 | 2 |
| 2. 沿革 | 3 |
| 3. 学事関係 | 4 |
| 4. 教育研究組織 | 5 |
| 5. 法人役員・評議員・教職員の概要 | 5 |
| 6. 教育活動 | 6 |
| 6-1 教育課程 | |
| 6-2 3学科の教育目的 | |
| 6-3 クロスオーバー履修制度 | |
| 6-4 初年次教育 | |
| 6-5 少人数教育 | |
| 6-6 「ゼミナール」の目的と目標 | |
| 6-7 教職課程 | |
| 6-8 学芸員課程 | |
| 7. 研究活動 | 12 |
| 7-1 教員の研究業績 | |
| 7-2 研究・委員会活動 | |
| 7-3 研究所・センター・その他 | |
| 8. 学生 | 12 |
| 8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数 | |
| 8-2 留学生支援 | |
| 8-3 奨学金制度 | |
| 8-4 健康相談、心的支援、生活相談等 | |
| 8-5 就職・進学支援 | |
| 8-6 卒業生の進路 | |
| 9. 学生のクラブ・同好会活動等 | 21 |
| 10. 社会的活動 | 22 |
| 10-1 生涯学習支援センター | |
| 10-2 大学コンソーシアム柏 | |
| 10-3 図書館関係 | |
| 10-4 日本橋学館大学協力会 | |
| 10-5 出張授業 | |
| 10-6 地域における活動 | |
| 11. 募集活動 | 25 |
| 11-1 「大学説明会」の開催 | |
| 11-2 学長による高等学校長訪問 | |
| 11-3 本学専任教員による高等学校訪問 | |
| 11-4 オープンキャンパスの開催 | |
| 11-5 入学試験の実施 | |
| 12. 管理運営 | 27 |
| 12-1 校地、校舎等の面積 | |
| 12-2 講義室、演習室、学生自習室の概要 | |
| 12-3 管理運営体制 | |

1. 建学の精神

本学を経営する「学校法人日本橋女学館」（以下、本法人という）の母体は、明治22（1889）年に設立された「日本橋区教育会」である。この「日本橋区教育会」が、明治37（1904）年に「日本橋女学校」（後に「日本橋高等女学校」）を設立し、明治38（1905）年から日本橋地区の子女の教育を開始した。この年の「日本橋女学校」の開校式で、初代校長・浦田治平の示した教育方針が「質実穩健」という言葉に集約されている。以来、二三の組織変更はあったものの、この「質実穩健」は本法人の「建学の精神」として今日まで受け継がれてきている。すなわち、大正4（1915）年に「日本橋区教育会」は「財団法人日本橋女学館」として独立し、その「設立寄附行為」第1条に、「本財団は、質実穩健なる学風の下に、日本橋区女子教育の普及発展を図るを以て目的とす」と規定している。

また、昭和23（1949）年には学制の改革により、「日本橋高等女学校」は「日本橋女学館中学・高等学校」となり、昭和26（1951）年には「財団法人日本橋女学館」を「学校法人日本橋女学館」へと組織変更しているが、「学校法人日本橋女学館寄附行為」第2章第3条においても、「この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、質実穩健なる学風のもとに学校教育を行い、社会に有用な人材を育成することを目的とする。」と規定して、「建学の精神」としている。

本法人は、昭和62（1987）年に80年の女子教育の伝統を生かし、当時の社会的要請に応えるため「日本橋女学館短期大学」を、現在の千葉県柏市に設置して、数多くの優れた卒業生を輩出してきた。その後、高等教育の高度化・多様化・個性化、科学技術の国際化・情報化や生涯学習社会への移行など、激変する時代に十分に対応できる人材育成を企図して、平成12（2000）年に女子短期大学を男女共学の4年制大学へと全面改組し、その名称も「日本橋学館大学」に改めて、新たなスタートを切っている。

本学の「学則」第1章・総則の第1条（目的）には、次のように記されている。

日本橋学館大学は、学校法人日本橋女学館草創の精神に則り、質実穩健の人格を育成し、総合的創造的な学術技術を研究教授して、社会においてこれを躬行実践、気品知徳の模範として指導的役割を果たす人材を育成するとともに、広く国際社会全体の平和と文化の発展に寄与することを目的とする。

このように、「寄附行為」及び「学則」にも謳われている本法人の「建学の精神」(質実穩健)は、明治38（1905）年に行われた「日本橋女学校」の開校式における校長訓示以来、100年以上にもわたって継承されてきた。しかしながら、時代の変化とともに、「建学の精神」も常に問い直されなくてはならない。平成18（2006）年12月に教授会の下部組織として発足した「将来計画委員会」では、本学の教学上における基本的な問題として、「建学の精神」の現代的意義、大学の「基本理念」及び「使命・目的」等を、1年余りをかけて慎重に検討した。その結果、「質実」とは「生活態度に飾り気がなくて真面目なさま」、「穩健」とは「考え方などが偏らず常識的である様子」等の辞書的な定義から出発して、最終的には「質実穩健」の現代的意義を、次のように定義することとした（平成19（2007）年7月18日、教授会承認）。

「質実」とは、人の暮らしや行動に派手さがなく、内容が堅実であること。すなわち、「質実」な生活を支えるための実学の伝承及び社会人としての基礎力の育成を目指している。「穩」は、心の有り様が「穩」やか、安らかなこと。「穩」やかな精神を育む、バランスのとれた幅広い教養と感性の教育を目指している。「健」は、身体が丈夫なこと。「健」やかな肉体、及び活力ある個性を育てることを目指している。

更に、＜質実穩健＞な人材の育成に要する「教育内容」として、＜質実＞であるためには「実学」を修得して専門性を高めること、＜穩健＞であるためには「教養」を身に付けることが必要であるという認識に到達した。ここから、本学の目指す教育研究上の「基本理念」は、「実学と教養を2本柱とする人間教育」とすることとし、「使命・目的」を「社会に貢献できる高い人間力を有した人材を育成すること」と定めたのである。

平成21(2009)年4月より、本学は「建学の精神」である＜質実穩健＞の現代的意義を踏まえた改組再編の結果として、従来の「人文経営学部」に代わって、「リベラルアーツ学部」を発足させている。その「教育目標」としては、「基礎力を固め、専門性を高めつつ、幅広い教養を身に付けること」を掲げている。そのために、「教育内容・教育方法」の大幅な改善を図り、「初年次教育」・「少人数ゼミナール」・「クロスオーバー履修」等の特色ある「教育システム」を構築しつつある。究極的には、「人間力」(社会で生き抜く力、すなわち「社会人基礎力」)を培うことを目指している。

2. 沿革

「建学の精神」でも語られているように、本法人は100年を越える歴史を持つ。それを母体として育った本大学は、その価値ある歴史と伝統を活かし、一方で、新しい時代に適応する活力を持った大学でありたい。

| | |
|-------------|--|
| 明治37(1904)年 | (社)日本橋区教育会に対して日本橋女学校(本科定員140名、修業年限4年)の設立認可 |
| 明治38(1905)年 | 日本橋蛸殻町第一幼稚園舎で開校式挙行。『質実穩健』の教育方針訓示 |
| 明治38(1905)年 | 5月1日、第一幼稚園舎で授業開始(創立記念日の起源) |
| 明治39(1906)年 | 高等女学校令に基づく私立日本橋高等女学校(4年制)に組織変更認可(当時、東京府下の高等女学校は府立4校を含めて7校) |
| 明治43(1910)年 | 柳原川岸三号地元千代田小学校跡に移転。修業年限5年、定員400名に変更 |
| 大正4(1915)年 | 財団法人日本橋女学館設立認可 |
| 昭和22(1947)年 | 学制の改革により私立日本橋女学館中学校となる |
| 昭和23(1948)年 | 私立日本橋女学館高等学校設置。私立日本橋女学館中学・高等学校と総称 |
| 昭和26(1951)年 | 財団法人日本橋女学館より学校法人日本橋女学館に組織変更認可 |
| 昭和30(1955)年 | 創立50周年記念事業実施 |
| 昭和40(1965)年 | 創立60周年記念式典(秩父宮妃ご来臨) |
| 昭和54(1979)年 | 市川学校園研修センター(寄宿舎、テニスコート、グラウンド)完成 |
| 昭和61(1986)年 | 日本橋女学館短期大学設置認可。入学定員/秘書科100名・英語科100名 |
| 昭和62(1987)年 | 日本橋女学館短期大学開学(初代学長:角井 宏) |
| 平成7(1995)年 | 創立90周年記念式典 |
| 平成11(1999)年 | 日本橋学館大学設置認可。入学定員/人文経営学部人文経営学科250名 |
| 平成12(2000)年 | 日本橋学館大学開学(初代学長:小谷津孝明) |
| 平成12(2000)年 | 日本橋学館大学開学式、日本橋学館大学第一回入学式 |

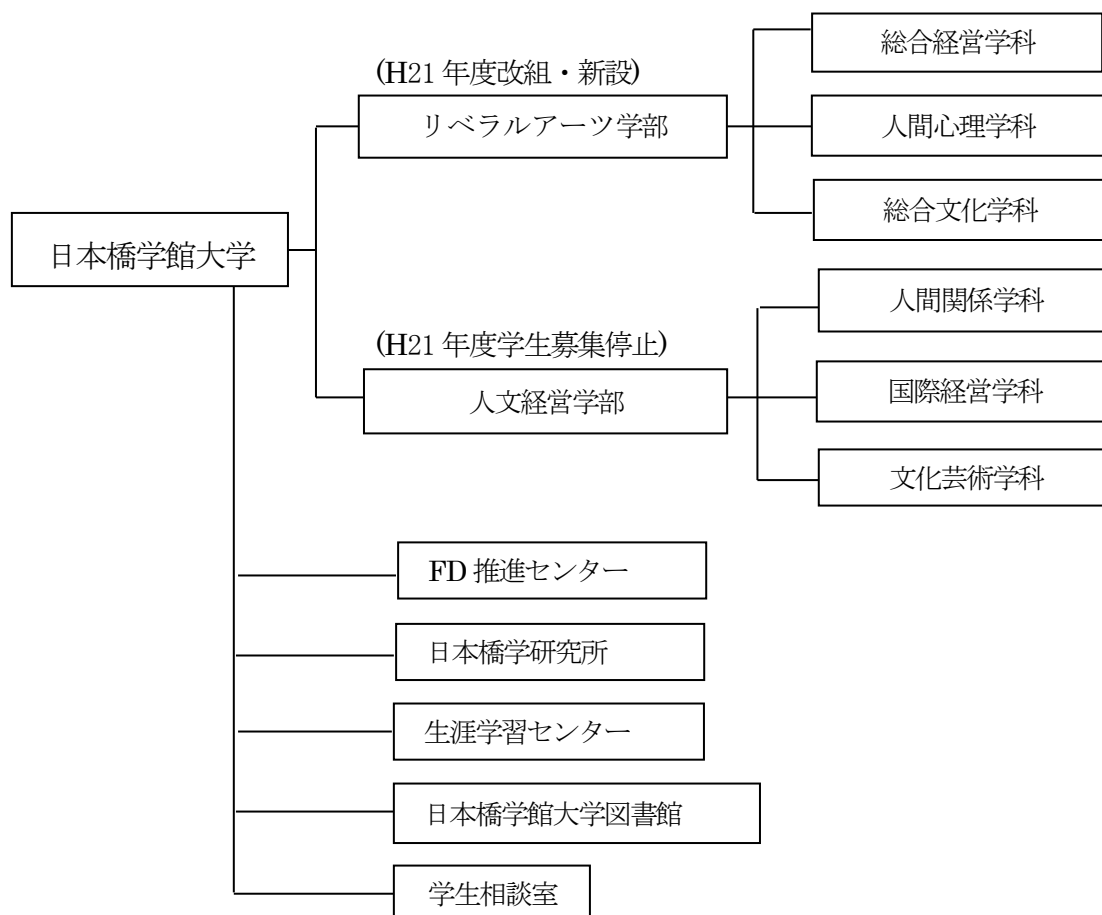
| | |
|----------------|---|
| 平成 13(2001)年 | 日本橋女学館短期大学閉学 |
| 平成 16(2004)年 | 日本橋学館大学人文経営学部人文経営学科を3学科（人間関係学科、国際経営学科、文化芸術学科）に組織改組 |
| 平成 17(2005)年 | 創立 100 周年記念式典 |
| 平成 18(2006)年 | 第二代学長：横山幸三 就任 |
| 平成 21(2009)年 | 日本橋学館大学人文経営学部をリベラルアーツ学部 _に 全面改組。3 学科（総合経営学科・人間心理学科・総合文化学科、入学定員 225 人）を設置。教職課程・学芸員課程を設置。 |
| 平成 23 年(2011)年 | 入学定員 150 名に変更 |

3. 学事関係

- ・平成 23 年 4 月 15 日 入学式（新入生 159 人）
- ・平成 23 年 4 月 16 日～ 19 日 ガイダンスウィーク
（履修ガイダンス、学生生活ガイダンス、健康診断等）
- ・平成 23 年 4 月 20 日 前期授業開始
- ・平成 23 年 5 月 1 日 創立記念日
- ・平成 23 年 7 月 26 日 前期授業終了
- ・平成 23 年 9 月 15 日 後期授業開始
- ・平成 23 年 10 月 29 日・30 日 柏学祭
- ・平成 24 年 1 月 16 日 後期授業終了
- ・平成 24 年 3 月 19 日 第 9 回卒業式（卒業生 70 人）

4. 教育研究組織

学部改組に伴う移行措置のため、平成23年度は人文経営学部（4年次以上）とリベラルアーツ学部（1・2・3年次）が並置されている。



5. 法人役員・評議員・教職員の概要 (平成23年5月1日現在)

[役員]

| 職名 | 氏名 | 寄附行為上の選任条項 |
|------|--------|------------|
| 理事長 | 細田 安兵衛 | 第7条第1項第5号 |
| 副理事長 | 山本 泰人 | 第7条第1項第2号 |
| 副理事長 | 三田 芳裕 | 第7号第1項第2号 |
| 常任理事 | 横山 幸三 | 第7条第1項第1号 |
| 常任理事 | 揚村 洋一郎 | 第7条第1項第1号 |
| 常任理事 | 藤山 一郎 | 第7条第1項第3号 |
| 理事 | 服部 一枝 | 第7条第1項第3号 |
| 理事 | 後藤 修司 | 第7条第1項第5号 |
| 理事 | 樋口 君子 | 第7条第1項第4号 |
| 理事 | 清水 満昭 | 第7条第1項第5号 |

| | | |
|----|---------|-----------|
| 理事 | 柏原 孫左衛門 | 第7条第1項第5号 |
| 理事 | 新堀 聡 | 第7条第1項第5号 |
| 理事 | 岩山 康之 | 第7条第1項第2号 |
| 理事 | 宮入 正英 | 第7条第1項第2号 |
| 理事 | 西川 恵 | 第7条第1項第5号 |
| 監事 | 築地 照吉 | 第8条 |
| 監事 | 森 俊行 | 第8条 |

[評議員]

- ・ 寄附行為第25条第1項（法人の職員）——（5人）
服部一枝、揚村洋一郎、藤山一郎、横山幸三、津川祐一
- ・ 寄附行為第25条第2項（卒業生）——（3人）
宮田栄子、樋口君子、菌部幸子
- ・ 寄附行為第25条第3項（理事会選出）——（3人）
新堀 聡、西川 恵、後藤修司
- ・ 寄附行為第25条第4項（学識経験者）——（20人）
岩山康之、細田安兵衛、柏原孫左衛門、山本泰人、三田芳裕、和気潤一、
松井巖司、廣田忠勇、石渡 茂、角井 宏、清水千枝子、渡辺 昌、
繁田開作、梅田勝利、木屋幸蔵、池木 清、富井征也、清水満昭、宮入正英
山田徳兵衛

[専任教職員]

大学教員：33人 大学事務職員：24人
 高校教員：28人 高校事務職員：8人
 中学教員：12人 中学事務職員：4人
 法人本部事務職員：1人
 法人合計：110人

6. 教育活動

6-1 教育課程

以下の2種類の教育課程が並存している。2カリキュラムは1カリキュラムの検討・反省のもとに作成されたものである。

2種類の教育課程

1カリキュラム（人文経営学部）— 平成16(2004)年度に改定された教育課程。

平成23(2011)年度の4年次が該当し、以下の3学科7専攻で構成される。

人間関係学科——人間社会専攻・心理臨床専攻

国際経営学科——総合経営専攻・経営情報専攻・国際秘書専攻

文化芸術学科——美学芸術専攻・国際文化専攻

2カリキュラム（リベラルアーツ学部）— 平成21(2009)年度に改定された教育課程。

平成23(2011)年度の1・2・3年次が該当する。

総合経営学科

人間心理学科

総合文化学科

1 カリキュラムでは、1年次に7専攻の教育概要を紹介する7つの「展望科目」すべてを履修した上で、各自の専攻を選び、2年次より、それぞれの学科・専攻に所属するシステムをとっていた。一方、2カリキュラムでは、1年次から各学科に属し「専門科目」を履修できるシステムとした。2カリキュラムにおける教育課程編成の概要は以下のとおりである。

2 カリキュラムの教育課程編成の概要

| | | | |
|------|---|---|-----------------------|
| 共通科目 | 基礎科目 教養科目 キャリア科目 外国語科目 スポーツ健康科目 | 補習教育的科目(英語・国語・数学)を含む 1年次必修(第1・第2外国語) 1年次必修を含む | |
| | 専門科目 (各学科) | 導入的な科目 各専門の中心科目 発展的な科目 | 1年次 2～4年次 3・4年次 |
| | ゼミナールⅠ～Ⅳ 卒業研究 | 1～4年次必修 4年次必修 | |

また、卒業に必要な単位数は以下のとおりであるが、他大学等で修得済みの単位を、原則60単位まで組み込むことが可能である。なお、各学年への進級条件に関する規定はない。

1 カリキュラムの卒業に必要な最低単位数

| | | |
|------------|--------------------------------------|----------------------------|
| 基礎教養的な科目 | ウェルネス科目 | 4(必修) |
| | コミュニケーションリテラシー科目 | 8(必修) |
| 外国語科目 | 第1・第2外国語科目(注1) 第1外国語(英語) 第2外国語 | 12 (内、必修4) (内、選択必修4) |
| コメンズメント科目 | キャリアプランニング | 2(必修) |
| | 研究会(卒業研究を含む)(注2) | 4(必修) |
| パースペクティブ科目 | 展望科目 | 14(必修) |
| 専門科目 | 各専攻の専門科目 (クロスオーバー履修を含む)(注3) | 80 |
| 合計 | | 124 |

(注1) 残りの選択4単位分については、必要とされる外国語の種類が専攻ごとに異なる。

(注2) 「卒業研究」は、4年次の「研究会Ⅱ」において合否判定される必修科目とする。

(注3) 他専攻の専門科目・ウェルネス科目・外国語科目・キャリアプランニングの修得単位数を選択科目として組み込むことができる。各専攻の必修・選択・クロスオーバー履修の上限の単位数は、専攻ごとに異なる。

2 カリキュラムの卒業に必要な最低単位数

| | 総合経営学科・総合文化学科 | 人間心理学科 |
|----------------------------------|---------------------|---------------------|
| 共通科目 | 8 (必修) | 8 (必修) |
| 自学科の専門科目 | 72 (内、必修 20 を含む) | 74 (内、必修 22 を含む) |
| 自学科の専門科目 共通科目 他学科の専門科目 (注) | 46 | 46 |
| 合 計 | 126 | 128 |

(注) クロスオーバー履修制度により、他学科の専門科目（ゼミナール・卒業研究を除く）の
修得単位数を、選択科目として組み込むことができる。

なお、本学で取得できる資格は次のとおりである。

取得できる資格

| 資 格 | | 主たる対象学科 |
|------------------------|------------|--------------------|
| 秘書士、上級秘書士 | 全国大学実務教育協会 | 総合経営学科 |
| 情報処理士、上級情報処理士 | | |
| 認定心理士 | 日本心理学会 | 人間心理学科 |
| カウンセリング実務士 | 全国大学実務教育協会 | |
| 高等学校教諭一種免許状 (情報) | | 総合経営学科のみ |
| 中学校教諭一種免許状 (英語・国語・社会) | | 総合文化学科のみ |
| 高等学校教諭一種免許状 (英語・国語・公民) | | |
| 学芸員 | | 全学科 (クロスオーバー履修) |

6-2 3 学科の教育目的

各学科の教育目的については、1 カリキュラムをもとに改良された、平成 21 (2009) 年度より実施されている 2 カリキュラムについて記す。

【総合経営学科】

企業経営の基本となる経営管理・会計・秘書・IT や、近年課題となっている健康・スポーツなどについて、理論的・実践的な専門性を身に付けるとともに、これらを社会で役立てられる実践力、ビジネスにおける効率的な組織運営や迅速で的確な意思決定にとって必要不可欠な IT スキルをベースとした情報力やコミュニケーション力、社会人の基礎力を育成する。

【人間心理学科】

人間を見つめる心理学的素養とカウンセリングマインド、客観的思考を可能とする科学的素養を持ち、社会人として豊かな人間関係を築ける人材、心理学的視点で人間・社会を見つめる力を持つ人材を育てる。具体的には、基礎心理学、臨床心理学、医療・保健・福祉に及ぶ豊富な専門科目に支えられた心理学的素養を持つ人材、臨床家を育成する。

【総合文化学科】

日本や外国の文学・言語・美術・音楽・演劇・民俗・歴史・教育など、人間が生み出した文化についての専門的で総合的な理解を身に付け、あわせて人間の社会的活動を科学的視点からとらえることができるような人材を育成する。

6-3 クロスオーバー履修制度

本学の教育課程における独特な制度として、クロスオーバー履修制度がある。この制度は、開学以来のものであり、他学科や他分野の科目の自由な履修を可能とし、幅広い教養人育成のために設けられている。

6-4 初年次教育

平成15(2003)年以降、新入生全員を対象に、大学という新しい環境に適応できるようにするために、専任教員の指導を充実させてきた。開始時には、「1年生ゼミ」(単位なし)を設けたが、平成16(2004)年度の改組により1カリキュラムの「キャリアプランニングⅠ」(1単位・必修)となり、2カリキュラムでは「ゼミナールⅠ」(1単位・必修)に改定された。これらの指導は、学生が所属する学科の専任教員が担い、担当教員1名につき8人前後の学生を対象としてなされる。具体的活動としては、履修指導、図書館オリエンテーション等を実施し、学生生活全般にわたった指導を行うとともに、学生間の親睦もはかっている。

初年次の第1外国語(英語・フランス語・ドイツ語・中国語)科目については、同一教員が週2回の授業を行うことで基礎力の充実をはかっている。その中でも英語科目に関しては、入学時に行う基礎力テストに基づく習熟度別クラスを編成している。

6-5 少人数教育

本学は、小規模大学である上に、幅広い教養教育を行っているために、すべての科目において少人数のクラス編成となっている。しかも、履修者数の上限を次のように設定している。

履修者数の上限(原則)

| 科目区分 | 履修者数の上限 |
|---------|---------|
| 情報機器科目 | 30人 |
| 演習・実習科目 | 30人程度 |
| 講義科目 | 60人程度 |

また、1カリキュラムにおける3・4年次の通年必修科目である、専門分野の教育を中心とする「研究会」、2カリキュラムにおける通年必修科目である1年次から4年次までの「ゼミナール」においても、少人数のクラス編成がなされている。

6-6 「ゼミナール」の目的と目標

少人数クラス編成によって、専任教員による丁寧な指導がなされている「ゼミナール」の目的と目標は以下のとおりである。前記したように、「ゼミナール」は、2カリキュラムにおいては、1年次から4年次まで通年の必修科目となっており、1年次と2年次には、学習面に加えて大学生活全般にわたる指導も行い、3年次と4年次には、「卒業研究」につながる専攻分野の教育を行っている。

2カリキュラムにおけるゼミナールの目的と目標

| ゼミナール | 目的 | 目標 |
|--------------|------------------|---|
| I (1年次) | 大学における学習活動の基礎を作る | 新たな環境である大学生活への適応 図書館での図書資料の検索 レポートの作成 |
| | 学習習慣の定着化 | 意欲的に授業に出席し、理解し、わからないことを質問できる姿勢 |
| | コミュニケーション能力を培う | 教員や友人との信頼関係の構築 |
| | 自己表現力を培う | 自己紹介などの自己表現練習 |
| II (2年次) | 専攻分野の選択へ向けた準備 | 専攻分野の把握と自己の興味の確認 |
| | 問題解決能力の基礎を培う | 問題点の指摘 |
| | 社会生活を営むための姿勢を培う | 社会常識の理解、実践 |
| III (3年次) | 専攻分野の基礎を培う | 専攻分野の基礎の理解 専攻分野の必要資料などの検索 論理的思考力の育成 |
| | 将来を展望する | 進路と人生の目標の探求 |
| IV (4年次) | 専攻分野に対する深い理解 | 専攻分野における問題発見、解決、まとめ、発表 卒業研究の完成 |
| | 将来を展望する | 進路についての明確な目標 |

このような目的・目標を達成するために、担当教員は、学習支援に加えて、次の役割等を担っている。

- ・ 学生が履修科目選択する際の相談・指導と履修登録の際の確認
- ・ 履修単位数の少ない学生や欠席の多い学生に対する相談・指導
- ・ 各種資格取得を求める学生への支援
- ・ 学生の進路に関するキャリアセンターと連携した指導
- ・ 大学からの必要に応じた学生への連絡
- ・ 学生の個人的なさまざまな相談・指導

6-7 教職課程

リベラルアーツ学部への改組に合わせて教職課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成21(2009)年度より運用を開始している。

平成23(2011)年度は設置三年目で履修者は1・2・3年次のみであり、学年進行で平成24(2012)年度に完成を予定している。なお、教育実習、介護等体験、教員就職支援など必要な活動について随時準備を進め、定期的にガイダンスを実施し指導にあたっている。

教職課程の設置学科および取得可能な免許状

| | |
|--------|-----------------|
| 総合経営学科 | 高等学校教諭一種免許状（情報） |
| 総合文化学科 | 中学校教諭一種免許状（英語） |
| | 高等学校教諭一種免許状（英語） |
| | 中学校教諭一種免許状（国語） |
| | 高等学校教諭一種免許状（国語） |
| | 中学校教諭一種免許状（社会） |
| | 高等学校教諭一種免許状（公民） |

教職課程の履修要件*

| 免許状の種類 | 基礎資格 | 教科に関する科目 | 教職に関する科目 | 教科又は教職に関する科目 | 合計 |
|--------|-------------|----------|----------|--------------|-------|
| 中学一種 | 学士の学位を有すること | 20 単位 | 31 単位 | 8 単位 | 59 単位 |
| 高校一種 | | 20 単位 | 27 単位 | 16 単位 | 63 単位 |

*教育職員免許法施行規則等に定める必要単位数。このほか教育職員免許法施行規則66条6により「暮らしのなかの憲法」「スポーツ実技 I・II」「外国語(1科目)」「情報機器の操作 I・II」の修得が必須となる。また中学1種の取得のためには「介護等体験」が義務づけられる。

教職課程の登録は、2年次進級時に行う。1年次には、共通科目として設定されている「学校と教育の歴史」「心身の発達と学習過程」「学校の制度」を随意に履修して、学校教育および教職についての関心を高め、学生自らの志向や適性を確認してから教職課程に登録することを推奨している。なお、上記3科目は「教職に関する科目」に算入される。

6-8 学芸員課程

教職課程と同じく、リベラルアーツ学部への改組に合わせて学芸員課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成21(2009)年度より運用を開始している。総合文化学科の正規の授業を受講しながら、同時に、学芸員課程として規定されている単位を修得すれば、学芸員の資格を取得できる。総合経営学科および人間心理学科の学生についても、クロスオーバー履修を活用して同資格を取得することが可能である。

なお、博物館法施行規則1条1に定める「博物館に関する科目」として「生涯学習論」「博物館概論」「博物館経営・情報論」「博物館資料論」「博物館実習」「視聴覚メディアと教育」「学校と教育の歴史」が設置されている（計15単位）。このほかに文化史・美術史・民俗学のうち2分野以上から8単位以上の選択科目を修得すれば学芸員資格を認定される。これらの選択科目は総合文化学科の専門科目として設定されており、必修科目を含めてすべて卒業単位に算入できる。

7. 研究活動

7-1 教員の研究業績

本学専任教員の研究業績については本学ウェブサイトの下記ページに掲載されているので参照のこと。

| | |
|--------|---|
| 総合経営学科 | http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/keiei_kyouin.php |
| 人間心理学科 | http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/shinri_kyouin.php |
| 総合文化学科 | http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/bunka_kyouin.php |

7-2 研究・委員会活動

平成23(2011)年度における教員の研究・委員会活動については次のとおりである。

- ・『紀要』第11号を刊行した。(原著論文7点、研究ノート2点、報告・資料3点)
- ・『日本橋学研究』第5巻1号を刊行した。
- ・科学研究費補助金(日本学術振興会交付分)の交付を受けた研究は次のとおりである。(研究代表者・五十音順に記載)
 - ① 武家肖像彫刻の基礎的研究 研究代表者：塩澤 寛樹教授
 - ② 「萎縮性骨格筋に対する運動の影響—筋代謝能, 脈波速度, 成長ホルモンからの検討—
研究代表者：芳賀 脩光教授

7-3 センター・その他

平成23(2011)年度の研究所・センター等における活動は以下のとおりである。

- ・平成22年度より、FD推進センターが開設され、「FD講演会」を平成23年6月15日に「心に悩みを抱える学生及び学校生活に適応しがたい学生について」という演目で実施した。
- ・学生を対象に「授業アンケート」「投書箱アンケート」を実施した。
- ・教職員を対象に「授業公開」を実施した。

8. 学生

8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数

平成23年5月1日現在

| 学部・学科 | | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 在籍学生総数 | 在籍学生数 | | | |
|-------------|--------|------|-------|------|--------|-------|-----|-----|-----|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
| | | | | | | 学生数 | 学生数 | 学生数 | 学生数 |
| リベラルアーツ学部 | 総合経営学科 | 65 | 5 | 260 | 153 | 68 | 61 | 24 | — |
| | 人間心理学科 | 40 | 5 | 125 | 108 | 52 | 37 | 19 | — |
| | 総合文化学科 | 45 | 5 | 230 | 97 | 38 | 42 | 17 | — |
| リベラルアーツ学部合計 | | 150 | 15 | 615 | 358 | 158 | 140 | 60 | — |
| 人文経営学部 | 人間関係学科 | — | — | 127 | 32 | — | — | 2 | 30 |
| | 国際経営学科 | — | — | 102 | 34 | — | — | 1 | 33 |
| | 文化芸術学科 | — | — | 34 | 39 | — | — | 1 | 38 |
| 人文経営学部合計 | | — | — | 263 | 105 | — | — | 4 | 101 |
| 合計 | | 150 | 15 | 878 | 463 | 158 | 140 | 64 | 101 |

平成 23 年度志願者および入学者の出身高校の地域別人数と割合

| | | 志願者数 (人) | 全志願者に対する割合 (%) | 入学者数 (人) | 全入学者に対する割合 (%) |
|-------------------|-------|-------------|-------------------|-------------|-------------------|
| リベラル アーツ 学部 | 千葉県 | 41 | 27.0 | 34 | 31.2 |
| | 北海道 | 1 | 0.7 | 0 | 0.0 |
| | 東北 | 10 | 6.6 | 8 | 7.3 |
| | 関東 | 75 | 49.3 | 49 | 45.0 |
| | 甲信越 | 4 | 2.6 | 1 | 0.9 |
| | 北陸 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| | 東海 | 3 | 2.0 | 3 | 2.8 |
| | 近畿 | 1 | 0.7 | 1 | 0.9 |
| | 中国 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| | 四国 | 6 | 3.9 | 5 | 4.6 |
| | 九州・沖縄 | 2 | 1.3 | 2 | 1.8 |
| | その他* | 9 | 5.9 | 6 | 5.5 |
| | 合計 | 152 | | 109 | |

*その他：外国の学校を卒業した者、高等学校卒業程度認定試験等の合格者

8-2 留学生支援

平成 20(2008)年度まで、留学生に関わる事柄は留学生委員会と留学生支援課が担当したが、留学生の在籍者数の減少に伴い、平成 21(2009)年度からは学生委員会と学生支援課の所掌となった。留学生支援の観点から、入学時には留学生オリエンテーションを開催し、「留学生のしおり」を配付するなどきめ細かな支援体制を確立した。

また、留学生対象の奨学金制度を設け、経済的な支援も行っている。

留学生の進路は、過去のデータからみると、日本国内の大学院進学、日本国内の企業の就職、帰国というものである。日本国内の大学院進学希望者、就職希望者には、後述 8-5 就職・進学支援の項にある「就職支援講座」に参加を促し、また、東京外国人雇用サービスセンターの利用を勧めている。

8-3 奨学金制度

学生に対する経済的な支援として、本学独自の制度を設けている。加えて、日本学生支援機構の一般奨学金や私費外国人留学生学習奨励費、地方公共団体や民間の奨学金、教育ローン等の情報を学生に提供しており、充実した奨学金制度活用となっている。今年度の奨学金給付・貸与状況は以下のとおりである。

平成 23(2011)年度実績

| 奨学金の名称 | 学内 学外 の別 | 給付 貸与 の別 | 支給 対象 学生数 | 月額支給 総額 (円) | 備 考 |
|--------------------|----------------|----------------|-----------------|-------------------|--|
| 日本橋学館大学学生に対する住宅費補助 | 内 | 給付 | 56 | 1,135,416 | 遠隔地出身者で一人暮らしの者に補助 (年額 25 万円) 留学生は除く |

| | | | | | |
|--------------------------|---|----|--------|-----------|---|
| 日本橋学館大学私費外国人留学生奨学金 | 内 | 給付 | 49 | 897,000 | 学業、出席状況、経済状況を考慮して選考し、授業料の一部を免除 |
| 日本橋学館大学私費外国人留学生住宅費補助 | 内 | 給付 | 12 | 96,155 | 入学時に住宅を賃借する際、一時金として月額家賃の3ヶ月分(上限10万円)を補助 |
| 日本橋学館大学特待生奨学金 | 内 | 給付 | 18 | 636,250 | 学業、経済状況等を考慮して選考し、授業料の一部を免除 留学生は除く |
| 日本橋学館大学スポーツ・文化芸術特待生 | 内 | 給付 | 24 | 1,011,250 | 活動実績に応じて、授業料の一部を免除 |
| 兄弟・姉妹の入学者に対する減免制度 | 内 | 給付 | 0 | 0 | 本学に兄弟、姉妹が在学している入学者対象 入学金半額免除 |
| 地元高等学校出身者に対する減免制度 | 内 | 給付 | 15 | 218,750 | 地元高校出身の入学者対象 入学金半額免除 |
| 日本橋女学館内部進学者奨学金 | 内 | 給付 | 3 | 173,750 | 併設校卒業の入学者対象 |
| 留学生特待生 | 内 | 給付 | 0 | 0 | 勤勉で高い日本語能力を有し、特待生入試(留学生)で合格した留学生 |
| (独)日本学生支援機構奨学金 | 外 | 貸与 | 一種 22 | 1,186,166 | 自宅通学:3, 5.4万円(月額) 自宅外通学:3, 6.4万円 |
| | | | 二種 101 | 7,579,165 | 3,5,8,10,12万円(月額)から選択 |
| | | | 併用 8 | 808,833 | 一種、二種の併用 |
| (独)日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費 | 外 | 給付 | 1年 6 | 624,000 | 1年間受給(2~4年次対象) |
| | | | 6ヵ月 1 | | |
| 被災学生に対する減免制度 | 内 | 給付 | 8 | 510,208 | 主たる家計支持者が、災害救助法適用地域において震災による被害を受け、学納金の減免を希望する者対象(被害状況等により異なる) |

8-4 健康相談、心的支援、生活相談等

学生の心身の健康と健全なる生活のために、以下の窓口や施設等を設置して、さまざまな相談に適切に応じられるように努めている。特に、新入生に対しては、入学式直後に『ハンドブック』を配付して、学生生活、奨学金制度、健康管理等についての説明を行うなど、全学生が相談のための窓口や施設を利用しやすいように周知している。

・「なんでも相談」窓口

学生生活全般に関する窓口として、事務局窓口のどこに相談したら良いか分からないで迷っている学生に対して、一般的な相談に応えるほか、関係部署の紹介等を行っている。

・保健室

常勤の看護師が保健室に常駐し、毎日学生からの健康相談を受けている。4月には全学生を対象とした定期健康診断を実施した。また、新入生に関しては、入学直後に「保健調査票」を提出させ、学生の健康状態を把握し、相談体制に活かしている。

①学生利用者状況 所見あり※病気、怪我、メンタルヘルスの主訴が明確な学生（単位：人）

| 月 学年 在籍数 | | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 計 | 比率 (%) | 利用率 (%) |
|----------------|---|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|---|-----|-----|-----------|------------|
| | 男 | 女 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | | | |
| 1年 157人 | 男 | 5 | 19 | 15 | 15 | 0 | 4 | 24 | 17 | 16 | 10 | 0 | 125 | 209 | 50 | 133 |
| | 女 | 4 | 20 | 13 | 23 | 0 | 3 | 8 | 7 | 4 | 2 | 0 | 84 | | | |
| 2年 144人 | 男 | 8 | 19 | 5 | 11 | 0 | 2 | 8 | 18 | 7 | 8 | 0 | 86 | 113 | 27 | 78 |
| | 女 | 2 | 5 | 8 | 3 | 0 | 1 | 2 | 4 | 1 | 1 | 0 | 27 | | | |
| 3年 64人 | 男 | 0 | 7 | 6 | 2 | 0 | 1 | 4 | 7 | 6 | 2 | 0 | 35 | 57 | 14 | 89 |
| | 女 | 1 | 0 | 2 | 6 | 0 | 0 | 6 | 4 | 0 | 3 | 0 | 22 | | | |
| 4年 107人 | 男 | 0 | 1 | 9 | 2 | 0 | 1 | 1 | 7 | 5 | 4 | 0 | 30 | 43 | 10 | 40 |
| | 女 | 1 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 | 2 | 0 | 0 | 13 | | | |
| 計472人 | | 21 | 72 | 61 | 63 | 0 | 12 | 57 | 65 | 41 | 30 | 0 | 422 | 100 | 89 | |

症状別 (単位：件)

| 症状・疾患名 | | 件数 | 計 |
|--------|-----------|-----|-----|
| 外科 | 筋肉痛 | 3 | 51 |
| | 捻挫 | 18 | |
| | 打撲 | 7 | |
| | 切り傷 | 18 | |
| | その他 | 5 | |
| 内科 | 頭痛 | 66 | 420 |
| | 腹痛 | 59 | |
| | 咳・くしゃみ咽頭痛 | 100 | |
| | 発熱 | 5 | |
| | その他 | 190 | |
| 計 | | | 471 |

所見有りの利用者 年次推移

| | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 利用者数（人） | 976 | 816 | 602 | 635 | 422 |
| 在籍数（人） | 867 | 714 | 573 | 509 | 472 |
| 利用率（%） | 113 | 114 | 105 | 125 | 89 |

(在籍数は各年度5月1日現在)

所見なし ※病気、怪我などの主訴が特にならない学生

| 学年 在籍数 | 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 計 | 比率 (%) | 利用率 (%) | |
|------------|---|-----|-----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|------|-----------|------------|-----|
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年 157人 | 男 | 16 | 29 | 16 | 50 | 0 | 24 | 101 | 78 | 67 | 54 | 2 | 437 | 598 | 49 | 381 |
| | 女 | 14 | 24 | 6 | 18 | 0 | 12 | 27 | 30 | 11 | 19 | 0 | 161 | | | |
| 2年 144人 | 男 | 56 | 38 | 10 | 21 | 0 | 21 | 21 | 37 | 21 | 18 | 0 | 243 | 323 | 27 | 224 |
| | 女 | 22 | 15 | 7 | 14 | 0 | 5 | 8 | 6 | 2 | 1 | 0 | 80 | | | |
| 3年 64人 | 男 | 17 | 11 | 0 | 5 | 0 | 6 | 6 | 11 | 8 | 6 | 0 | 70 | 206 | 17 | 322 |
| | 女 | 36 | 17 | 9 | 4 | 0 | 6 | 16 | 25 | 12 | 11 | 0 | 136 | | | |
| 4年 107人 | 男 | 16 | 12 | 2 | 6 | 0 | 3 | 8 | 11 | 11 | 8 | 0 | 77 | 90 | 7 | 84 |
| | 女 | 4 | 2 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 13 | | | |
| 計472人 | | 181 | 148 | 53 | 118 | 0 | 78 | 187 | 200 | 133 | 117 | 2 | 1217 | 100 | 258 | |

②新入生保健調査 (157人) 報告内容

- ・喘息・アトピー : 5人
- ・ネフローゼ症候群 : 1人
- ・整形外科的治療中 : 1人
- ・統合失調症 : 2人
- ・てんかん : 1人
- ・血液凝固障害 : 1人

③学校感染症

A型インフルエンザ : なし

結核 : なし

④禁煙支援プログラム (平成23年11月～)

参加者 : 1人、中断者1人

・学生相談室

全学生が、主に心理的な相談を受けることができるように、専門の心理カウンセラー（非常勤の臨床心理士1人）とピアカウンセラー（非常勤の本学心理臨床卒業生1人）、更に、本学の人間心理学科所属の専任教員（2人）により、週4日「学生相談室」を開室している。

学生相談室利用状況

単位：件（人）

| 学年 (在籍人数) | 月別利用件数 | | | | | | | | | 計 |
|--------------|--------|--------|--------|-------|------|--------|-------|-------|------|---------|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | |
| 1年 138人 | 8(4) | 13(6) | 9(2) | 8(3) | 1(1) | 7(4) | 9(3) | 4(2) | 1(1) | 60(26) |
| 2年 166人 | 2(2) | 5(3) | 3(2) | 3(2) | 0 | 1(1) | 0 | 1(1) | 0 | 15(11) |
| 3年 74人 | 4(2) | 8(3) | 11(4) | 8(2) | 5(4) | 6(3) | 6(3) | 4(2) | 3(2) | 55(25) |
| 4年 88人 | 0 | 2(1) | 3(1) | 4(1) | 1(1) | 4(1) | 4(1) | 3(1) | 2(1) | 23(8) |
| 保護者 | 2(2) | 0 | 1(1) | 0 | 0 | 3(2) | 3(2) | 3(2) | 3(2) | 15(11) |
| その他 | 0 | 6 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 計 466人 | 16(10) | 34(13) | 28(10) | 24(8) | 7(6) | 21(11) | 22(9) | 15(8) | 9(6) | 176(81) |

相談内容

(単位:人)

| | 学業 | 進路 | 生活 | 心理 | その他 | 合計 |
|-----|----|----|----|----|-----|----|
| 1年 | 3 | 0 | 9 | 9 | 0 | 21 |
| 2年 | 2 | 0 | 3 | 3 | 0 | 8 |
| 3年 | 0 | 3 | 2 | 4 | 0 | 9 |
| 4年 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 |
| 保護者 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 5 |
| 合計 | 6 | 4 | 17 | 19 | 0 | 46 |

学業：履修・留年・休学・研究・教職など
進路：大学院・専攻・就職・人生など

生活：健康・課外活動・家庭・経済など
心理：精神衛生・性格・対人関係など

その他の活動

(単位：件)

| 活動内容 | 前期 | 後期 | 計 |
|--------------------------------|-----|-----|-----|
| コンサルテーション | 23 | 18 | 41 |
| カウンセラーサロン <月・水> 12:00～13:00 | 193 | 128 | 321 |
| カウンセラーサロン <火> 12:30～13:00 | 28 | 25 | 53 |
| カウンセラー予約外臨床 (保健室等、他の場所) | 43 | 29 | 72 |
| ピアカウンセリング 月1～2回・不定期 | 5 | 8 | 13 |

相談数・利用率推移

(在籍数は各年度5月1日現在)

| | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 |
|--------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 利用者 (人) | 20 | 33 | 30 | 34 | 46 |
| 件数 (件) | 69 | 179 | 129 | 195 | 169 |
| 在籍数 (人) | 867 | 714 | 573 | 509 | 466 |
| 全利用率 (%) | 2 | 5 | 5 | 7 | 10 |
| 日本人学生数 ・利用率 (%) | 581 | 485 | 420 | 397 | 363 |
| | 3 | 7 | 7 | 9 | 13 |
| コンサルテーション (件) | | | 46 | 30 | 41 |
| サロン (件) | | | 44 | 239 | 321 |

・教員によるサポートアワー制度

専任教員により、原則週1回、各教員の研究室で、決められた時間帯にサポートアワーを設け、訪問してくる学生に対する各種相談を行っている。

8-5 就職・進学支援

・キャリアセンターの取り組み

学生に対する就職・進学支援は、キャリアセンター、キャリア委員会、ゼミの担当教員の全学的な取り組みで行われている。毎月のキャリア委員会では、求人状況、内定状況、各種講座・セミナー等の出席状況の分析を行い、教授会での委員会報告の場を持ち、本学の進路体制の統一性を維持している。また、各学科会議において、キャリア委員が各学科の進路問題に対処している。

3年次を対象とする「個人登録カード」による進路調査を起点に、ゼミの担当教員、キャリア委員、キャリアセンター職員から相談・助言できる体制を構築している。キャリアセンターでは、「個人登録カード」をもとに学生の名前と顔を一致させ、学生の顔が見える face to face の対応を心掛け、学生の個別就職相談に応じる体制を整えている。平成23年度は、41名の就職希望者に対する年間の相談・指導実績は延べ1,162件であった。また、「進路支援講座：学内合同企業説明会」(5/27, 7/7, 1/24 実施)、「就活講座」(5/19, 5/20 実施)、「進学(専門学校)説明会」(11/11 実施)の出席学生状況・その感想記録、SPI模擬テストの結果、適性検査の結果等、指導上有効に活用できる資料を常備して、当該学生の相談・助言の際の資料としている。

上記に加えて、本年度より学内での就職カウンセリング・相談支援体制を整えた。3年生を対象にキャリアカウンセラーによる就職カウンセリングを実施し、延べ122名の学生が利用した。また4年生を対象にハローワークのジョブサポーターによる就職相談を学内にて開催し、延べ168名の学生が利用した。

さらに、保護者向けに「保護者対象進路個別相談会」を7月10日(日)に実施した。

・キャリア教育の充実

文部科学省の大学設置基準の改正に合わせて、キャリア教育全体の充実を図った。具体的には、1年次より共通科目として「キャリアデザイン」科目をラインナップし、1年次は実践的キャリアガイダンス「キャリアデザイン基礎・I」、2年次は就職試験(民間・公務員)対策「キャリアデザインII・A」、3年次(4年次)は就職環境の理解と活動・面接対策等「キャリアデザインB・C」を配置した。尚、キャリアデザイン基礎は新設、キャリアデザインI・II・A・B・Cは、従前実施していた「進路支援講座」の内容を教育課程に取り組んだかたちである。また専門科目として、2・3年次対象に「インターンシップ」を配置している。

8-6 卒業生の進路 (平成23年度)

平成24年4月30日現在

| 卒業生数 | | | 内 訳 | | | | | | |
|----------------|----|----|-------------|-------------|--------------|----|-------|-------|-----|
| | | | 就 職 希 望 者 | | | 進学 | アルバイト | 帰国・結婚 | その他 |
| | | | 内定者 | 活動中 | 計 | | | | |
| 人文 経営 学部 | 男 | 51 | 22 (79%) | 6 (21%) | 28 (100%) | 4 | 10 | 2 | 7 |
| | 女 | 23 | 8 (62%) | 5 (38%) | 13 (100%) | 0 | 4 | 4 | 2 |
| | 合計 | 74 | 30 (73%) | 11 (27%) | 41 (100%) | 4 | 14 | 6 | 9 |

| 専攻 人数 | 就職 (進学) | 専攻 人数 | 就職 (進学) | 内 定 企 業 名・進 学 校 名 |
|----------------|------------|----------------|------------|---|
| 人間 社会 14 | 6 (1) | 心理 臨床 8 | 3 (2) | <p><内 定 企 業 名></p> <p>農業・林業：浅野農園 建設・不動産：ファシリティバンク・ファインコーポレーション 中野塗装 製造：庫や 小売：サミット・ジョイフル本田・クリエイトSD・三和エナジー・大治・ITS・HDP 運輸：浅野運輸 飲食：ふく留・隆泰商行・龍記 情報：日本アイティ産業・システムシェアード・リードオフネット サービス：ミニットアジアパシフィック・悠輝・ICI・アポロ 東立産業 医療福祉：神聖会・菜の花会 公務・団体：国家公務員共済組合連合会・横浜市シルバー人材センター・生活協同組合連合会・生活クラブ生活協同組合</p> |
| 総合 経営 8 | 3 (0) | 経営 情報 16 | 8 (0) | |
| 国際 秘書 5 | 1 (0) | 美学 芸術 13 | 7 (1) | |
| 国際 文化 10 | 2 (0) | X | | |
| | | | | <p><進 学 校 名></p> <p>大学院他：比治山大学大学院・聖徳大学通信教育学部 専門学校：江戸川大学総合福祉専門学校・千葉県自動車大学校</p> <p>※順不同</p> |

9. 学生のクラブ・同好会活動等

学生のクラブ・同好会活動は以下のとおりである。

(平成23年5月現在)

| 体育系 | | 文化系 | |
|-----------|---------|--------------------------------|--------|
| クラブ | 人数 | クラブ | 人数 |
| 硬式野球 | 57 | 美術(Artistic) | 13 |
| バスケットボール | 8 | 軽音楽 | 28 |
| バドミントン | 9 | 管楽アンサンブル (WEL 響) | 11 |
| フットサル | 14 | 食文化研究 (SWEETS) | 7 |
| ミニテニス | 10 | 演劇 | 17 |
| 陸上競技 | 5 | 気晴らし娯楽演芸研究会 (ENTERTAINMENT) | 8 |
| バレーボール | 13 | | 計 84 人 |
| パワーリフティング | 3 | | |
| | 計 119 人 | | |

<同好会>

卓球、シェイクスピア、天文、服飾

学生のスポーツおよび文化活動においては、以下のとおりの活発な活動がなされた。

・硬式野球部

千葉県大学野球春季リーグ戦 3部第四位 秋季リーグ戦 第二位

今井 健登 打撃 第一位 (春季リーグ戦)

DH賞 (春季リーグ戦)

小金谷 直史 打撃 第一位 (秋季リーグ戦)

成島 雄太 打撃 第二位 (春季リーグ戦)

・パワーリフティング部

池上 宏樹

第30回全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会 第一位

第61回埼玉県パワーリフティング選手権大会 第一位・最優秀賞

第91回関東学生パワーリフティング選手権大会 第一位・最優秀選手賞

第40回全日本男子パワーリフティング選手権大会 第四位

第29回世界ジュニアパワーリフティング選手権大会 第六位

第16回ジャパンオープンパワーリフティング選手権大会 第二位

根本 梢

第30回全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会 第一位

第91回関東学生パワーリフティング選手権大会 第一位・最優秀選手賞

第29回世界ジュニアパワーリフティング選手権大会 第五位・種目別第二位

・管楽アンサンブル (WE L響)

柏中央地区敬老会にて演奏

台東区社会福祉事業団みのわ高齢者在宅サービスセンターにて慰問演奏

・演劇部

かしわ演劇祭 2011 演劇集団「くれいまん」として公演

また、岩山基金特別賞は、パワーリフティング部の池上 宏樹、根本 梢に授与された。

○柏学祭について

10月29日(土)・30日(日)の両日に開催された。東日本大震災復興支援企画として、「チャリティーバザール」を開催し、売上はすべて義援金として日本赤十字社へ寄付した。また、本学名誉教授による文化講演会「ロマンチック街道はじまるころ」・「フランスの遠藤周作」や、声優によるトークショーなども開催した。

10. 社会的活動

10-1 生涯学習支援センター

・市民公開講座の実施

次のような内容の17講座を開講し、246人の受講者があった。

平成23年度 公開講座一覧表

| 開催日 | 講座名 | 担当教員 | 受講人数 |
|-------------|-----------------------------------|-------|------|
| 10/4、11(火) | 木曾義仲の最後と平家滅亡 | 柳沢 孝子 | 20 |
| 10/17、24(月) | 古き都への郷愁と王朝貴族の風流 | 服部 一枝 | 16 |
| 11/26(土) | 平氏政権と日宋貿易 | 太田英比古 | 27 |
| 10/22(土) | 祇園精舎、沙羅双樹、仏教の無常観 | 杉木 恒彦 | 34 |
| 11/17、24(木) | 「俊寛と有王」の物語 — 「平家物語」・芥川龍之介・菊池寛— | 佐々木さよ | 12 |

| | | | |
|--------------------------|--------------------------------------|--------|----|
| 10/7、14(金) | 清盛たちとみほとけ | 塩澤寛樹 | 14 |
| 10/15(土) | 平家物語と歌舞伎 －「熊谷陣屋」と「義経千本桜」－ | 大倉 直人 | 12 |
| 11/21、28(月) | 清少納言の生きかた 「枕草子」を中心としてみたもの | 服部 一枝 | 14 |
| 11/22、29(火) | 久保田万太郎を読む －滅びゆく江戸下町－ | 柳沢 孝子 | 8 |
| 10/13、20、 27(木) | 仙人の住む世界を覗いてみよう －中国六朝志怪小説購読－ | 三枝 秀子 | 14 |
| 10/20、11/10、 17、24(木) | 原文で読むドイツ文学 | 阿部 雄一 | 4 |
| 10/10、17、 24(月) | イタリア・バロック音楽の楽しみ | 飯森 豊水 | 15 |
| 11/19(土) | 曼荼羅が映し出すもの －マンダラから見るインド・ネパール密教文化－ | 杉木 恒彦 | 14 |
| 10/1、8 (土) | 征韓論はなぜ興ったか －日本政治史持論－ | 瀧川 修吾 | 6 |
| 11/1、8、15(火) | カウンセリング入門 | 佐々木由利子 | 13 |
| 12/1、8(木) | 人間の心の発達 －乳幼児精神保健入門－ | 寺本 妙子 | 7 |
| 11/1、8、15、22、 29(火) | 太りにくい身体を作ろう －ミニテニス－ | 高橋 早苗 | 16 |

10-2 大学コンソーシアム柏

柏市の呼びかけにより発足した「大学コンソーシアム柏」は、平成23年9月から「大学コンソーシアム東葛」と改称し、地域と大学の連帯による知的資源を生かした街づくりを推進している。また、東葛地域の学生が大学や専門を超えて交流し、地域とフィールドに学びあい、地域、行政、大学と連携し、まちづくりに取り組むことを目的に学生ワークショップを実施しています。

10-3 図書館関係

・第4回図書館祭

平成23年4月3日（日）に第4回目を予定し準備を重ねていたが、3月11日の大震災により中止した。

・ほほ月らいぶ

震災の影響があり、これまでより回数を減少させたが、地元の有名ブラスバンドを始め、邦楽やヨーロッパ中世古楽器など幅広い分野の演奏会を開催。特に「薩摩琵琶ライブ」は、学生の授業としても同じ演目で演奏を行うなど、これまでとは一味違う取り組みを行った。平成23年4月から平成24年3月までに4回実施し、動員数は約740人であった。内容は以下のとおりである

| No. | タイトル | 開催日 | 動員人数 |
|-------|--------------------------------|--------------------------------------|------|
| その 20 | 松戸市立第四中学校 吹奏楽部コンサートⅡ | 平成 23 年 5 月 29 日 (日) 14:00~16:00 | 207 |
| その 21 | 薩摩琵琶ライブ 『平家物語』を語る—「祇園精舎」「壇ノ浦」他 | 平成 23 年 11 月 12 日 (土) 15:00~17:00 | 164 |
| その 22 | 柏市立柏高校吹奏楽部 フレッシュコンサート | 平成 23 年 11 月 27 日 (日) 14:00~15:45 | 205 |
| その 23 | バロック音楽の旅 ～フランスからドイツへ～ | 平成 24 年 2 月 19 日 (日) 14:00~15:45 | 158 |

・摘水軒コレクションの展示 (図書館内)

昨年1年間にわたり月替わりで展示していた「摘水軒コレクション」。大震災を境に終了したが、展示再開を望む声が多くあり、再スタートした。柏市の文化財団である摘水軒記念文化振興財団の協力を得て、季節に相応しい肉筆浮世絵の名品を不定期で展示した。内容は以下のとおりである。

| 展示月 | 展示内容 (作者等 / 作品名) |
|-----------------|------------------|
| 平成 23 年 3 月・4 月 | 岡本秋暉 / 蟠桃飛鶴図 |
| 平成 24 年 1 月 | 長澤芦雪 / 十二支図 |
| 平成 24 年 3 月・4 月 | 溪斎英泉 / 鯉の滝登り図 |

10-4 日本橋学館大学協力会

＜「日本橋学館大学協力会」は、本学学生の生活を支える柏地域の人々を中心に、不動産業ならびに仲介業、商店主、商工主、柏地域の住民（企業）の方々に本学ならびに本学学生の支援、指導をお願いする目的で、柏商工会議所の後援により設立された。＞

10-5 出張授業・講義体験

中学生・高校生を対象に、その学校に本学教員が出向いたり、本学に来てもらって大学での学習の楽しさ、また、本学の教育内容の充実と本学の良さを伝えた。

- ・平成 23 年 10 月 12 日 (水) 湖北台中学校
- ・平成 23 年 11 月 10 日 (木) 東京学館高等学校
- ・平成 23 年 11 月 24 日 (木) 翔洋学園高等学校 (講義体験)
- ・平成 23 年 12 月 19 日 (月) 代々木高等学校

10-6 地域における活動

千葉県柏市、松戸市、文化庁における、各種委員会活動等に、本学教員が講師・委員として参加した。

1 1. 募集活動

1 1-1 「大学説明会」の開催

- ・平成23年7月15日（金）本学こもればいホールにおいて、千葉県隣接高校の進路指導教員対象として実施した。本学における教育の特色をアピールした。9校（千葉県内と東京都内の公立・私立）進路指導部の先生方が参加された。

1 1-2 学長による高等学校長訪問

- ・平成23年度は実施せず。

1 1-3 本学専任教員による高等学校訪問

各教員が担当する高等学校を訪問した。訪問地区は次のとおりである。

| | |
|-----|----------------------------|
| 千葉県 | 大学を中心とした東葛飾地区、総武線（市川や浦安）地区 |
| 東京都 | 23区の特に千葉寄りの地区 |
| 茨城県 | 水戸市より南の地域 |
| 埼玉県 | さいたま市より千葉県寄りの地区 |
| 長野県 | 長野市を中心とした地区 |

1 1-4 オープンキャンパスの開催

OPEN CAMPUS 2011 参加者集計結果

OC 開催日程および参加者数

| 開催日 | 参加者 (人数) | 受験対象者 (人数) |
|-----------|-------------|---------------|
| 4月23日（土） | 10 | 10 |
| 5月28日（土） | 20 | 20 |
| 6月26日（日） | 22 | 21 |
| 7月9日（土） | 21 | 19 |
| 7月31日（日） | 47 | 34 |
| 8月6日（土） | 41 | 26 |
| 8月14日（日） | 71 | 21 |
| 8月24日（水） | 44 | 24 |
| 8月28日（日） | 28 | 14 |
| 9月25日（日） | 30 | 22 |
| 10月22日（土） | 11 | 11 |
| 10月29日（土） | 17 | 15 |
| 10月30日（土） | 14 | 11 |
| 12月10日（土） | 19 | 17 |
| 1月28日（土） | 11 | 8 |
| 合 計 | 406 | 273 |

受験対象者
男女比

| 性別 | 人数 | 割合 |
|----|-----|--------|
| 男 | 145 | 53.1 % |
| 女 | 128 | 46.9 % |
| 計 | 273 | 100 % |

全体参加者の分類

| 分類 | 人数 | 割合(%) | 分類 | 人数 | 割合(%) |
|----|-----|-------|-----|-----|-------|
| 3年 | 267 | 65.8 | 留学生 | 10 | 2.5 |
| 2年 | 91 | 22.4 | その他 | 9 | 2.2 |
| 1年 | 29 | 7.1 | 合計 | 406 | 100 |

・県別参加者数

千葉県は受験対象者 125 名（受験対象者全体 46%）であり、昨年度 136 名（受験対象者全体 43%）。参加者は減少したが、受験対象者全体の割合は増加した。続いて受験対象者の参加者順は東京都・埼玉県・茨城県となる。東京都は 73 名（受験対象者全体 27%）であり、昨年度 92 名（受験対象者全体 29%）。参加者と受験対象者全体の割合も減少した。埼玉県は受験対象者 30 名（受験対象者全体 11%）であり、昨年度 31 名（受験対象者全体 10%）。ほとんど変化はなかった。茨城県は受験対象者 25 名（受験対象者全体 9%）であり、昨年度 19 名（受験対象者全体 6%）。参加者と受験対象者全体の割合も増加した。

他県については、福島県 5 名（昨年度 1 名）、神奈川県 1 名（昨年度 8 名）、静岡県 3 名（昨年度 8 名）、新潟県 4 名（昨年度 11 名）。宮城県・群馬県・栃木県・長野県・その他は特に大きな変化はなし。

単位：人

| | | | | | | | |
|------|----|-----|-----|-----|----|-----|----|
| 宮城県 | 1 | 福島県 | 5 | 群馬県 | 3 | 栃木県 | 1 |
| 茨城県 | 25 | 千葉県 | 125 | 埼玉県 | 30 | 東京都 | 73 |
| 神奈川県 | 1 | 静岡県 | 3 | 長野県 | 1 | 新潟県 | 4 |
| その他 | 1 | 合計 | 273 | | | | |

・通学過程の分類

全日制の参加者は 215 名（昨年度 249 名）。昨年度から減少しているが、昨年度と同じ受験対象者全体の約 8 割を占めている。通信制は 58 名（昨年度 70 名）。昨年度から減少しているが、受験対象者全体の 2 割は変わらない。

単位：人

| | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|-----|
| 全日制 | 215 | 通信制 | 58 | 合計 | 273 |
|-----|-----|-----|----|----|-----|

11-5 入学試験の実施

| | | |
|-------|-----|----------------|
| AO入試 | 10回 | 平成23年8月22日～年度末 |
| 推薦入試 | 7回 | 平成23年11月5日～年度末 |
| 一般入試 | 3回 | 平成24年2月3日～年度末 |
| 特待生入試 | 3回 | 平成23年11月5日～年度末 |
| 留学生入試 | 4回 | 平成23年10月8日～年度末 |
| 編入学入試 | 1回 | 平成23年9月10日～年度末 |
| 訪問入試 | | 随時実施 |

12. 管理運営

本学は緑に囲まれた閑静な住宅地内に位置する。この地域は住居専用地域に指定されているため、高さ10m以上の建物が建てられないという制限等がある。よって設備の拡充には制約があるため、校舎面積は十分に余裕があるとは言えないが、大学設置基準上必要とされる面積は校地・校舎ともに満たしている。

12-1 校地、校舎等の面積

| 比較対象 | 収容定員 | 校地 | | | 校舎 | | |
|---------|------|----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| | | 基準面積 | 現有面積 | 差異 | 基準面積 | 現有面積 | 差異 |
| 日本橋学館大学 | 878人 | 9,300 m ² | 25,783 m ² | 16,483 m ² | 5,388 m ² | 8,079 m ² | 2,691 m ² |

* 校地・校舎ともす専用

12-2 講義室、演習室、学生自習室等の概要

| 建物区分(面積) | | 用途 | * () 内は部屋数等 |
|-------------------------------|---------------------------------|--|--------------|
| 校舎 | 1号館 (4,159 m ²) | 大教室(マルチメディアルーム)、一般教室(9)、ゼミ室(3)、CALL教室(PC34台)、コンピュータ教室(4教室・PC120台)、和室、教職課程資料室、キャリアセンター資料室(PC2台)、応接室、学長室、教員研究室(30)、事務局(総務課、会計課、教務課、学生支援課、アドミッションオフィス、キャリアセンター、印刷室)、会議室(2) 学生ホール(106 m ²)、学生食堂(345 m ²)、学生会室、用務員室 | |
| | 2号館 (1,903 m ²) | 大教室(センターホール)、中教室(3)、一般教室(4)、女子更衣室、非常勤講師控室、生涯学習センター、教員研究室(1)、保健室、学生相談室 | |
| | 図書館棟 (2,005 m ²) | 図書館事務室、学習図書閲覧室、情報コーナー(PC10台)、応接室、書庫、こもれびホール(163 m ²)、教室(2)、日本橋学研究所、教員研究室(9)、教員サロン、名誉教授室 | |
| | 警備室 (12 m ²) | 受付 | |
| 計 8,079 m ² | | | |
| 体育関連施設(1,319 m ²) | | 体育館(1,037 m ²)、トレーニングルーム(222 m ²)、管理室、シャワー室 * 別棟の男子更衣室(60 m ²) 含む | |

12-3 管理運営体制

